

## 症例報告を書いてみよう

- ◆ 2017 年度より中級では 4 回の症例報告提出が中級修了要件となりました。

症例報告を介し、小児臨床を充実させて参りましょう！

\* 症例報告の提出が難しい方(学生など)

「保護者の説得」、「子どもとの接し方」等、子どもに触れることによって得た事を「症例報告書」に代えて提出しても構いません。

なお、その場合は「症例報告書」が作成できない理由や反省・改善点などもご記載ください。

- ◆ 症例報告を書くのに必要な情報の聞き取りが不足していた場合は、もう一度問診し、二回目の施術をさせてもらいましょう。そうすることで、さらに充実した報告になるはずです。

### <症例報告の書き方>

学会発表の症例報告では「目的」「症例」「結果(経過)」「考察」「結語」といった項目を立てて書く形式が通例です。

今回は特に形式は問いませんが、以下の項目を参考に、1,500 字以内にまとめてください。「わかりやすい小児鍼の実際」の症例も参考にしてみてください。

①(必須!) 題名・提出者氏名

②(必須!) 患者名(=イニシャルで表記)・性別・年齢・初診日

③主訴

④現病歴

⑤その他、必要と思われる情報

(主訴以外の愁訴、家族構成、家族歴、出産状況・出生時体重、栄養<母乳か人工乳か>・離乳の時期など)

⑥所見

(身体所見、どんな子か<性格、特徴、施術時の様子・表情など>、どんな親か、皮膚の硬さ柔らかさ、過緊張部位など)

⑦治療内容(施術部位、ドーズ)

⑧結果または経過

(施術後の子どもの様子・変化、保護者との会話内容、第 2 診以降の経過など)

⑨考察・感想

### <提出・返却方法>

①手合わせ会の 2 週間前までに大師流小児はりの会関東事務局までメールに添付してご提出ください。(件名は「中級第〇回提出症例報告(名前)」としてください)。

メールが使えない場合は、事務局に FAX で送信または郵送にてご提出ください。

②中級手合わせ会時に講評を付け返却いたします。